

# 別 海 町 議 会 会 議 録

## 第 3 号 (平成 22 年 12 月 17 日)

### 議事日程

日程第 1

会議録署名議員の指名

日程第 2

各議案・討論・採決

平成 22 年度別海町一般会計補正予算 (第 4 号)

(町長提出議案第 84 号)

平成 22 年度別海町介護サービス事業特別会計補正予算

(第 3 号) (町長提出議案第 85 号)

平成 22 年度町立別海病院事業会計補正予算 (第 2 号)

(町長提出議案第 86 号)

平成 22 年度別海町水道事業会計補正予算 (第 2 号)

(町長提出議案第 87 号)

公の施設に係る指定管理者の指定について

(町長提出議案第 88 号)

公の施設に係る指定管理者の指定について

(町長提出議案第 89 号)

公の施設に係る指定管理者の指定について

(町長提出議案第 90 号)

公の施設に係る指定管理者の指定について

(町長提出議案第 91 号)

公の施設に係る指定管理者の指定について

(町長提出議案第 92 号)

公の施設に係る指定管理者の指定について

(町長提出議案第 93 号)

公の施設に係る指定管理者の指定について

(町長提出議案第 94 号)

辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について

(町長提出議案第 95 号)

日程第 3

平成 21 年度別海町各会計決算審査特別委員会付託事件審査結果報告

(認定第 1 号、認定第 2 号、認定第 3 号、認定第 4 号、認定第 5 号、認定第 6 号、認定第 7 号、認定第 8 号、認定第 9 号)

日程第 4 発議第 16 号

メドベージェフ・ロシア大統領等の北方領土訪問に抗議を求める意見書について

日程第 5	発議第 17 号	公立義務教育諸学校の教職員定数等に関する意見書について
日程第 6	発議第 18 号	大幅増員と夜勤改善で安全安心の医療・介護を求める意見書について
日程第 7	発委第 8 号	議長の議会招集権及び地方議会議員の位置づけの明確化を求める意見書について
日程第 8	発委第 9 号	B 型肝炎問題の早期全面解決を求める意見書について
日程第 9		委員会開催の承認について

#### 会議に付した事件

日程第 1		会議録署名議員の指名
日程第 2		各議案・討論・採決
		平成 22 年度別海町一般会計補正予算（第 4 号）
		（町長提出議案第 84 号）
		平成 22 年度別海町介護サービス事業特別会計補正予算（第 3 号）（町長提出議案第 85 号）
		平成 22 年度町立別海病院事業会計補正予算（第 2 号）
		（町長提出議案第 86 号）
		平成 22 年度別海町水道事業会計補正予算（第 2 号）
		（町長提出議案第 87 号）
		公の施設に係る指定管理者の指定について
		（町長提出議案第 88 号）
		公の施設に係る指定管理者の指定について
		（町長提出議案第 89 号）
		公の施設に係る指定管理者の指定について
		（町長提出議案第 90 号）
		公の施設に係る指定管理者の指定について
		（町長提出議案第 91 号）
		公の施設に係る指定管理者の指定について
		（町長提出議案第 92 号）
		公の施設に係る指定管理者の指定について
		（町長提出議案第 93 号）
		公の施設に係る指定管理者の指定について
		（町長提出議案第 94 号）
		辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について
		（町長提出議案第 95 号）
日程第 3		平成 21 年度別海町各会計決算審査特別委員会付託事件審査結果報告
		（認定第 1 号、認定第 2 号、認定第 3 号、認定第 4 号、認定第 5 号、認定第 6 号、認定第 7 号、認定第 8 号、認定第 9 号）
日程第 4	発議第 16 号	メドベージェフ・ロシア大統領等の北方領土訪問に抗議を

求める意見書について

日程第 5	発議第 17 号	公立義務教育諸学校の教職員定数等に関する意見書について
日程第 6	発議第 18 号	大幅増員と夜勤改善で安全安心の医療・介護を求める意見書について
日程第 7	発委第 8 号	議長の議会招集権及び地方議会議員の位置づけの明確化を求める意見書について
日程第 8	発委第 9 号	B型肝炎問題の早期全面解決を求める意見書について
日程第 9		委員会開催の承認について

出席議員（18名）

1 番	西 原 浩	2 番	沓 澤 昌 廣
3 番	福 原 春 夫	4 番	安 部 政 博
5 番	瀧 川 榮 子	6 番	山 田 信
7 番	丹 羽 勝 夫	8 番	松 原 政 勝
9 番	戸 田 博 義	10 番	戸 田 憲 悦
11 番	中 村 忠 士	12 番	佐 藤 初 雄
13 番	池 田 幸 雄	14 番	安 田 輝 男
15 番	山 崎 賢 一	16 番	佐々木 春 男
副議長 17 番	横 堀 昭 康	議 長 18 番	渡 邊 政 吉

出席説明員

町 長	水 沼 猛	副 町 長	磯 田 俊 夫
教 育 長	山 口 長 伸	総 務 部 長	小 守 正
福 祉 部 長	田 村 秀 男	産 業 振 興 部 長	飯 島 孝 二
建 設 水 道 部 長	田 中 忠 敏	教 育 部 長	根 本 幸 三
監 査 委 員 事 務 局 長	半 田 雅 代	農 委 事 務 局 長	森 本 哲 男
病 院 事 務 長	真 籠 毅	会 計 管 理 者	上 月 昭 彦
総 務 部 次 長	有 田 博 喜	福 祉 部 次 長	笠 原 悦 雄
福 祉 部 次 長	守 川 昇	福 祉 部 次 長	松 本 光 永
産 業 振 興 部 次 長	土 井 一 典	建 設 水 道 部 次 長	大 島 登
総 務 課 長	宮 部 正 好	総 合 政 策 課 長	有 田 博 喜
総 務 課 参 事	佐 藤 則 夫	財 政 課 長	竹 中 仁
税 務 課 長	干 場 俊 昭	福 祉 課 長	松 本 光 永
福 祉 部 付 課 長	松 壽 和 広	町 民 課 長	斎 藤 英 彦
福 祉 課 参 事	清 水 純 夫	保 健 課 長	佐 藤 秀 明
特 老 施 設 長	村 井 勉	デ イ サービス セ ン タ ー 施 設 長	中 澤 信 明
老 健 事 務 長	清 尾 昌 弘	農 政 課 長	山 崎 茂
環 境 特 別 推 進 室 長	佐 藤 康 男	水 産 み ど り 課 長	藤 原 繁 光
商 工 観 光 課 長	岡 田 一 芳	管 理 課 長	木 村 功 男

事業課長 天田 豊  
上下水道課長 永野 寛昭  
病院事務課長 佐藤 一彦  
学務課参事 今井 道春  
図書館長 中川 浩

事業課技術長 山岸 英一  
(病院建設準備室長)

出納室長 相山 一晴  
学務課長 佐藤 英敏  
生涯学習課長 下地 哲

議会事務局出席職員

事務局長 佐藤 次春

主 幹 山田 一志

会議録署名議員

3番 福原 春夫

5番 瀧川 榮子

4番 安部 政博

開議 午前 9時56分

#### 開議宣告

議長（渡邊政吉君） ただいまから、第4日目の会議を開きます。

ただいま出席している議員は18名でございます。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

#### 日程第1 会議録署名議員の指名

議長（渡邊政吉君） 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第119条の規定により、議長において指名いたします。  
3番福原議員、4番安部議員、5番瀧川議員、以上3名を指名いたします。

#### 日程第2 各議案・討論・採決

議長（渡邊政吉君） 日程第2 各議案の討論・採決を行います。

まず、議案第84号平成22年度別海町一般会計補正予算の討論に入ります。  
討論ございますか。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、議案第84号は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第85号平成22年度別海町介護サービス事業特別会計補正予算の討論に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、議案第85号は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第86号平成22年度町立別海病院事業会計補正予算の討論に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、議案第86号は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第87号平成22年度別海町水道事業会計補正予算の討論に入ります。

(「なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 御異議なしと認めます。

したがって、議案第87号は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第88号公の施設に係る指定管理者の指定について(別海町ケアハウスみどりの)の討論に入ります。

(「なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 御異議なしと認めます。

したがって、議案第88号は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第89号公の施設に係る指定管理者の指定について(別海町高齢者生活ハウス)の討論に入ります。

ございますか。

(「なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 御異議なしと認めます。

したがって、議案第89号は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第90号公の施設に係る指定管理者の指定について(西春別デイサービスセンター)の討論に入ります。

(「なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 御異議なしと認めます。

したがって、議案第90号は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第91号公の施設に係る指定管理者の指定について(別海町酪農研修牧場)の討論に入ります。

(「なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、議案第 9 1 号は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第 9 2 号公の施設に係る指定管理者の指定について（別海町農業団地センター兼農業者トレーニングセンター）の討論に入ります。

ございますか。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、議案第 9 2 号は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第 9 3 号公の施設に係る指定管理者の指定について（別海町ウニ種育苗センター）の討論に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、議案第 9 3 号は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第 9 4 号公の施設に係る指定管理者の指定について（別海町ニシン種苗生産センター）の討論に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、議案第 9 4 号は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第 9 5 号辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更についての討論に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、議案第 9 5 号は、原案のとおり可決されました。

日程第 3 平成 2 1 年度別海町各会計決算審査特別委員会付託事件審査結果報告  
議長（渡邊政吉君） 日程第 3 平成 2 1 年度別海町各会計決算審査特別委員会付託事

件審査報告を議題といたします。

認定第1号から認定第9号までの9件について。

なお、本件につきましては、平成22年第3回定例会において、各会計決算審査特別委員会を設置し審査を付託しております。この審査報告書が提出されておりますので、審査結果の報告を求めます。

決算審査特別委員会委員長。

決算審査特別委員会委員長（佐藤初雄君） それでは、平成21年度別海町各会計決算審査特別委員会の報告をいたします。

平成21年度別海町各会計決算審査特別委員会における審査経過と結果について御報告をいたします。

本年、第3回定例会に認定第1号から認定第9号までが上程され、9月14日の本会議において本特別委員会が設置されました。

9月17日には第1回目の委員会を開催し、審査方法などを協議、決定し、本審査に必要な関係資料の提出を求めました。

なお、本年度も事前資料や事前質問を取りまとめるなど、質疑の充実と効率的な審査となるよう努めたところであります。

本審査は、10月19日から10月27日までのうち、実質4日間の日程で、所管ごとに内容を慎重に審査して、11月10日には理事者等の出席を求め、総括質疑を行い、一切の質疑を終了し、委員会として討論・採決に至ったものであります。

審査の経過と結果については、お手元に配付しております報告書のとおりでありますので、朗読は省略させていただき、審査過程において今後の行政執行における指摘事項、あるいは創意工夫すべき事項を含め、審査意見として御報告申し上げます。

なお、委員会では各会計とも適正に執行されているとして、1名が欠席し、委員7名による採決では、一般会計、国民健康保険特別会計及び後期高齢者医療特別会計は賛成多数で、その他6会計については全員一致で認定された次第であります。

最初に、一般会計については、歳入歳出実質収支で5億8,600万3,000円の黒字決算となっており、本格導入された財政健全化判断比率等を見ましても良好な状態であり、特に是正する事項ありませんが、全体的に財政の硬直化が続いていることから、何かと不確定な要素が多い中ではありますが、今後も引き続き健全な財政運営の確保を目指すべきであると言えます。

地方財政を取り巻く環境は、世界的な金融危機の後、いまだ回復をしない国内経済情勢を反映し、引き続き大変厳しい状況にあります。

また、国は地方財政計画が過大であるとの認識を示し、2011年度予算編成では、地方交付税1兆5,000億円の特別枠加算の廃止を検討しているとの報道があります。

このように、地方財政計画等が不透明な中であっては、的確な情報の把握と、施策の根幹を担う財源の確保に努め、将来を見据えた財政展望のもとに、歳出の削減と各種事業の費用対効果の検証を行い、平成21年度にスタートした第6次別海町総合計画の着実な推進を図るとともに、町財政の健全化に一層努めることが肝要であります。

特に町税及び税外の収入未済額、あるいは滞納繰越額に対する収納環境、処分方法については、現在の社会状況等を見ると、ますます困難になることは否めません。このことは、円滑な財政運営に支障を来すとともに、公正・公平な負担を著しく欠き、町民の納付意識の低下を招くことになりかねないことから、今後も収納環境の整備を図り、関係機関



等の共通理解のもと、個々の生活状況や収入未済、滞納の要因を細かく分析し、滞納整理機構への引き継ぎを含め、きめ細かな対応をとるなど、なお一層の収納率向上に努める必要があります。

不納欠損処分についても、景気低迷が長引き、収入の不安定要素が多い中、生活困窮者や居所不明者など、真にやむを得ない者に限定して適用し、実態を十分調査した上で、場合によっては法に基づく適正な措置を講じることが必要であります。

また、遊休町有財産などについては、売り払い等により財源確保につながることから、利活用計画の検討を早急に進めることを期待するものであります。

今後においては、21年度で終了した行財政改革集中改革プランの検証を行った上で、新たな計画等によりこれからの方向性を示し、歳出のさらなる節減による財政運営の健全性や弾力性が保持されることを期待します。

一方、団塊の世代が大量に退職したことに伴い、定員適正化計画を前倒しして職員の削減目標が達成されました。しかしながら、職員負担などの増加などによる住民サービスの低下が懸念されるところであり、職員の適正な確保と人材育成に努め、地域の実情に即した労働力の需要と供給に努める必要があります。

次に、六つの特別会計についてであります。

国民健康保険特別会計については、赤字解消のための法定外の繰り入れ1億4,533万6,000円を含む総額2億8,788万1,000円を一般会計を繰り入れし、黒字決算となったものの、根本的な問題の解決には至っていない状況であります。

収入未済額を前年度と比較すると、現年課税分、滞納繰越分、いずれも減少していますが、収入未済額が歳入調定総額の4.8%を占め、財政運営に及ぼす影響が大変懸念されるところであります。

保険税の収納率については、前年度を1.8ポイント上回る87.5%となっており、滞納世帯への対応などに関しては、関係職員等の努力は高く評価できるものであり、公正公平な負担と税収の確保の観点からも、今後とも収入未済額の解消と収納率の向上に向け、町民に対して十分な説明を行うとともに、さらなる努力と慎重な対応が望まれます。

次に、老人保険特別会計については、後期高齢者医療制度への移行により、次年度で廃止されることになります。

後期高齢者医療特別会計については、国の制度改正等の動向が不透明な中で、普通徴収保険料で約134万9,000円の未収金がありますが、現年課税分については減少しております。今後も引き続き町民に理解を求めながら、未収金の解消に向けた関係職員の努力と健全運営を望むものであります。

次、下水道事業特別会計については、現計画区域内基本施設整備はおおむね終了しており、一般会計からの繰入金も前年度と比較して4,186万円減少しております。また、収入未済額も減少傾向にあり、下水道普及率においても関係職員の努力が認められる状況にありますので、今後も継続して理解と協力を得ながら、将来を見据え、町民と共通認識に立ちながら、計画的に運営していく努力が必要であります。

次に、介護サービス事業特別会計及び介護保険特別会計についてですが、介護サービス事業では一般会計からの繰入金の前年度と比較すると1,530万円増加しており、介護保険特別会計では、収入未済額を前年度と比較すると、現年課税分で1.9%減少しているものの、滞納繰越分で28.7%増加しております。今後においては、今まで以上に介護保険制度などの情報を積極的に提供し、町民に理解と協力を求めながら、収入未済額の

解消に向けた努力が望めます。

次に、町立別海病院事業及び水道事業の2企業会計についてであります。

まず、病院事業会計についてですが、現在、新病院の建設が進められている中、入院・外来とも患者数は増加したものの、結果として収益収支で純損益が前年度を上回る状況になっております。また、10億円を超える累積欠損金があり、一般会計からの繰入金も昨年に引き続き5億円を超え、基準外の繰入金は前年を下回ったものの、平成19年度以降は2億円を超える額となっており、依然、経営状況は厳しいものがあります。今後とも必要な医療提供体制の確保、維持と、病床利用率の向上を図るため、医師及び医療従事者の安定的確保や、改革プランの推進による財政運営と健全経営に努め、地域に根ざした良質な医療が提供されることを期待するものであります。

次に、水道事業会計については、国営事業の整備計画等が不透明であります。後年度以降も予想されていることから、早期の事業実施を期待するところであります。今後も引き続き経営基盤の強化、経費縮減による経営の効率化と施設の延命化等を図りながら、安全で安心できる水道水の安定供給を望むものであります。

以上が、審査過程における指摘事項や創意工夫等を含む審査意見であります。

総括的に見ますと、国においては第2弾の事業仕分け等が実施されるなど、予算編成作業が進められているものの、国の予算や地方財政対策もまだまだ不透明な状況に加え、地方の行財政を取り巻く環境は大変厳しく、地方自治体にとっては改革の時代の中にあるといえます。

本町においても例外ではなく、基幹産業である農漁業の経営問題、TPP交渉への参加など、今後の動向によっては地域にとって甚大な影響を受ける問題や、新病院事業開始に関する課題などが山積している中、産業振興や町民福祉の向上を図るためにどのような予算を編成していくのか、極めて難しい現状に直面しております。

まちづくりにおいては、第6次総合計画を基本として進めていかなければなりません。町民と行政とが共通理解のもと、本町が抱える諸問題について幅広い議論を展開し、政策を決定していくことが必要であり、また、安定的、継続的に重点施策を推進する上で、既存事務事業の費用対効果の検証を行うことが肝要であると考えます。

今後、一層事業の選択と集中や事務の効率化等を図り、国や道の動向も見きわめながら、後年次への財政負担を十分に考慮し、効果的、効率的な予算執行に努めるとともに、町民との情報共有を推進し、「笑顔あふれる豊かな実感のまち」を住民と協働によりつくり上げるよう切望するところであります。

以上をもって、平成21年度別海町各会計決算審査特別委員会の報告といたします。

議長（渡邊政吉君） 委員長報告が終わりましたので、ここで委員長報告に対する一括質疑を行います。

質疑に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） ないようですので、質疑を終わります。

それでは、これから、平成21年度別海町各会計決算認定について、討論、採決を行います。

認定第1号平成21年度別海町一般会計歳入歳出決算認定について討論に入ります。

まず、原案に反対の発言を許します。

11番中村議員。

11番（中村忠士君） それでは、反対討論いたします。

まず第1点目として、滞納整理機構について述べたいと思います。

税の徴収は行政の根幹をなす仕事の一つであり、町行政と町民との互いの信頼関係を不断の努力で築きつつ、きめ細かく行わなければならない部門であります。したがって、税滞納の問題も行政の最重要課題になります。仮に本当に悪質な滞納があるならば、厳正に対応する必要がありますが、差し押さえ等の権限は町にもあるわけだから、町の責任でそれをやればいいと予算審議の中で申し上げました。町行政として避けてはいけないことを避けて、滞納整理機構に丸投げするやり方は、まさに責任の放棄そのものと言わざるを得ません。決算の状況を見ますと、徴収率は負担金を差し引けば実質20.9%でしかありません。滞納整理機構の中でも分割支払い相談では92.94%と徴収率は高く、同様の分割支払い相談を滞納整理機構に丸投げするのではなく、町として実施する必要があるということを指摘しておきます。

2点目です。一般廃棄物処理についてであります。

予算ベースで約1億7,700万円の広域連合負担金が1億5,900万円で済んだのは、分別等、町民が努力した結果かと思います。また、ホームページを立ち上げるなど、広域連合も努力しており、評価されていいと思います。

しかし、別海町としてどうだったかという点では疑問があります。平成21年度予算審議で私は、22年度から本格償還が始まることに加え、メーカーの保証期間が切れて、点検、維持、補修費が広域連合の負担となる。各町の負担も大きくふくらむことになるということを経験した上で、現時点で最も大事なことは、こうした状況を町民にお知らせし、施設の延命と経費の削減のための協力をお願いすることだと提起しました。しかし、平成21年から22年にかけての町の動きを見てみると、積極的情報開示や町民に対する働きかけは残念ながらほとんど見られません。

三つ目です。国営環境保全型かんがい排水事業についてであります。

私は、この事業を全面的に否定するという立場ではありません。しかし、重大な問題もあるということを指摘しているわけであります。

論点は二つあります。

1点目、1戸当たり1億円から2億円の施設建設費をかけるこの事業の費用対効果の十分な検証がないまま事業が進展、拡大しており、しかも規定どおりに施設の運用をすると、ランニングコストや労力がふくらみ、自治体にも利用農家にも大きな負担がかかると予想されますが、この点についての検証も十分ではありません。

二つ目は、ふん尿処理に関する技術体系は、当国営かん排方式以外にも数種類あるにもかかわらず、利用農家にとって95%補助の当方式以外の選択がなかなかできにくい状況にあります。利用農家が他の方法を事実上選択できず、ふん尿処理の方法がこの事業に一本化されることは、地域として大きなリスクを背負い込むことになるということであります。技術体系はさまざまあり、その一つ一つに長所、短所があります。問題は、それについて自主的に判断し、採用する選択権が各農家に平等に保障されるということであります。多様な方法が採用されていることによって、互いの比較検討が可能となり、より質の高い技術への発展につながりますが、現状は単一化へひた走る状況になっています。町はこうした問題に対して、自主的な検討、判断を避けて、開発局任せにしてきたというのが最大の問題であると思います。

以上、町行政の基本にかかわる3点の問題点を指摘して、平成21年度一般会計決算認

定に対する反対討論といたします。

議長（渡邊政吉君） 次に、原案に賛成者の発言を許します。どなたかございますか。

10番戸田憲悦議員。

10番（戸田憲悦君） 私は、本決算を認定すべきという立場で討論いたします。

ただいま中村議員さんから貴重な御意見等いただきました。まさにそういうこともあるかと思います。いろいろな諸問題を抱えながら、その解決に向けて予算を執行していくわけですから、数点の異議があったとしても、総論としては賛成していかなければならない、執行していかなければならないと私は思います。

皆さん御承知のとおり、昨今、地方の財政を取り巻く情勢は大変厳しい状況にあります。本町も財源の多くを国や道に依存する財政構造となっており、自主財源が乏しいことから、非常に窮屈な財政運営を強いられております。

このような中、平成21年度は前年に引き続き150億円を上回る歳出決算であり、50億円を超える事務事業を実施しながら、財政調整基金の取り崩しをしないで、実質収支約5億8,000万円の黒字という結果であります。このことは、普通交付税が引き続き増額となったことや、8億5,000万円を超える地域活性化、生活対策のための臨時交付金がなされたことも大きな要因であります。また、人件費、公債費の削減を初め各分野における経費節減などの効果によるものとなっております。また、事務事業についても、基幹産業の振興や町民生活に直結した福祉などの必要な施策が展開されており、住民要望にもおおむね配慮した内容であったと考えます。

財政指標などの悪化は見られませんが、今後の財政運営に当たっては、長期的な財政の健全性に配慮しつつも、地域課題を解決するため、積極的な姿勢を持って挑まれることを期待しながら、本決算の認定に賛成するものであります。

以上であります。

議長（渡邊政吉君） ほかに討論ございますか。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） ないようですので、これで討論を終わります。

これから、認定第1号を採決いたします。

本件については、起立により採決いたします。

この決算に対する委員長報告は、認定とするものです。

認定することに賛成する議員の起立を求めます。

（賛成者起立）

議長（渡邊政吉君） 起立多数であります。

したがって、認定第1号は、認定することに決定いたしました。

認定第2号平成21年度別海町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について、討論に入ります。

ございますか。

それでは、まず原案に反対者の発言を許します。

11番中村議員。

11番（中村忠士君） それでは、反対の討論いたします。

1985年以降、国は国の負担割合をどんどん切り下げ、国保の歳入全体に占める国の負担割合は50%台から30%台に大幅に縮小されてきました。別海町の国保会計が厳しい状況にある最大の原因はここにあります。

その点を踏まえた上で、町の姿勢について問題点を指摘します。

この５年間、連続して国保に関する加入者負担が増加しました。５年前に９６％だった収納率も、今では８０％台となっています。国保税の引き上げに加え、今の不況下において、貧困化が進み、確実に支払い困難な世帯がふえてきています。こういう状況だからこそ、地方公共団体は住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を負うとする地方自治法を精神を発揮して、町民の生活安定、安心に向けたあらゆる努力を町はしなければなりません。

しかし、別海町では、資格証明書の発行数が全道他町と比較すると突出しています。国民皆保険の制度の中で、特に医療に安心してかかれる手立てを残すため、資格証明書の発行については原則として発行しないという基本方針を町は持つべきです。

また、現在活用されていない一部負担金の減免または徴収猶予に関する規則について、しっかりした情報提供と、きめ細かく柔軟な対応を含め、活用の拡大が図られるよう、町は積極的に取り組む必要がありますが、その姿勢が残念ながら見られません。

以上の点を指摘し、平成２１年度国民健康保険会計認定に反対する討論といたします。

議長（渡邊政吉君） 次に、原案に賛成者の発言を許します。

どなたかございますか。

８番松原議員。

８番（松原政勝君） それでは、賛成の立場で討論させていただきます。

まず、国保会計の決算認定でございますが、本町の国保会計については、平成１７年度に赤字決算が生じて以来、依然として厳しい運営を余儀なくされております。この要因は、長引く経済の低迷、目まぐるしい医療制度の改正など、さまざまな要因はあろうかと思えます。保険税の平準化や北海道からの無利子借入金を初め、保険税率においても、この数年の改正はあるものの、一般会計による赤字補てん、繰り入れも含め、あわせて行っており、国保会計加入者負担を最小の範囲とする内容であることは、根室管内、この近隣市町村を見ましても、保険税率は決して高いものではございません。

まずここで、国保の事業として、別海町は２０年度より特定健診という、非常に病気の予防、さらには病気の早期発見を含めて、いろいろ特定健診事業を行っております。ちょっと時間をかりまして、その特定健診の受診率だとか、そのようなことを申し上げます。

２０年度は、４０歳から７４歳までの対象者が４,４１９人、受診者が１,５６３人、目標率２５％に対して３５.４％と、非常に高い受診率だったわけです。

２１年度は対象者が４,４０８人、受診された方が２,０８８人、目標４５％に対して４６.２％。

今年度、２２年度は、最終数字ではございませんが、対象者が４,３５４人、受診された方が１,７８１人、目標５０％に対して４０.９％と、これは１０月１日現在でございますが、ちょっと今年度は低くなっております。町を挙げて一生懸命特定健診に取り組んでいるわけですが、いまひとつ、加入者全員の理解が少し足りないかなと、このようにも思っております。

また、北海道における１人当たりの療養諸費、医療にかかわった１人当たりの医療費でございますが、別海町は１７年度から２１年度まで、全道で１人当たりの医療費として一番かかっていない、３０万円から２９万円ということで、多いところでは６９万円、７０万円という、そういう数字から見ても別海町は本当に医療費をかけていないということが

ここで示されております。全道、全国を見ましても、別海町の医療費というのは非常に低いわけでございます。そういう保健事業を初め一生懸命国保会計の中で取り組んでいるわけでございます。

また、本年５月の国民健康保険法の改正による都道府県による広域支援計画、あるいは昨年の政権交代によって国が目指す新しい高齢者医療制度においては、国保の運営主体を都道府県単位下にするなど、新制度の改革が報道されております。

このように、今後の医療制度の方向性が不透明な状況下において、町長は、住民にとって将来大きな負担とならないように配慮するとともに、総合的に判断し、２１年度はこれまでの赤字を一度解消する決算となったものでございます。

今後の健全な会計運営に期待し、国保会計決算認定に賛成するものであります。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） ほかに討論ございますか。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） ないようですので、以上で討論を終わります。

これから、認定第２号を採決いたします。

本件については、起立により採決いたします。

この決算に対する委員長報告は、認定とするものです。

認定することに賛成する議員の起立を求めます。

（賛成者起立）

議長（渡邊政吉君） 起立多数であります。

したがって、認定第２号は、認定することに決定いたしました。

次に、認定第３号平成２１年度別海町老人保健特別会計歳入歳出決算認定について、討論に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、認定第３号を採決いたします。

本件は、委員長報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、認定第３号は、認定することに決定いたしました。

認定第４号平成２１年度別海町下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について、討論に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、認定第４号を採決いたします。

本件は、委員長報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、認定第４号は、認定することに決定いたしました。

認定第５号平成２１年度別海町介護サービス事業特別会計歳入歳出決算認定について、討論に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、認定第5号を採決いたします。

本件は、委員長報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、認定第5号は、認定することに決定いたしました。

次に、認定第6号平成21年度別海町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について、討論に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、認定第6号を採決いたします。

本件は、委員長報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、認定第6号は、認定することに決定いたしました。

次に、認定第7号平成21年度別海町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について、討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。

11番中村議員。

11番（中村忠士君） 後期高齢者医療制度は、当時の小泉政権が、高齢化社会に対応するためとして、総額で8兆円の医療費抑制を決めたことが発端となって始まりました。その医療費抑制制度の主要な柱として位置づけられたのが後期高齢者医療制度であります。

後期高齢者医療制度の本質は、年寄り医療費がかかるのだから、年寄り同士で負担し合わなければならないというものであり、75歳以上の人を国保や被用者保険から切り離し、独自の医療保険制度とするものでした。

そもそも医療費抑制が目的の第一であるため、高齢者やその家族に重い負担がかかる仕組みになっているというのが最大の特徴です。中曽根元首相をして、実に冷たい、愛情の抜けたやり方に老人が全部反発している。至急もとに戻して考え直す姿勢をはっきり示す必要があると言わしめるほど冷酷な制度であり、多くの高齢者から、年寄りは早く死ねということかという声が上がリ、撤回を求める世論が多数を占めるようになりました。高齢者の方々が、生きていてごめんなさいと思わざるを得なくする、この差別的医療制度自体に反対であります。

さらに、別海町では、後期高齢者医療制度にかかわって、短期保険証を発行されている方がおられます。別海町より低い収納率の自治体でも、短期保険証の発行をしていない自治体は数多くあります。福祉のまち別海にふさわしくない高齢者に対する短期保険証の発行は問題であり、直ちに改めることを求めて、後期高齢者医療特別会計決算の認定に反対する討論といたします。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 次に、原案に賛成者の発言を許します。

9番戸田博義議員。

9番（戸田博義君） 私は、本会計の決算認定に賛成の立場で討論いたします。

平成20年4月からの後期高齢者医療制度については、スタート当初、制度の趣旨や仕組み等が十分周知されていなかったことから、社会的な批判を招いたものであります。このことの反省から、国は本医療制度に対するさまざまな改正を行ってきており、今ではこの制度もかなり国民に理解され、定着されてきている状況であると考えます。

この医療制度も含めて、日本の医療保険制度は世界でも唯一の国民皆保険制度として、相互共済、あるいは相互扶助の精神により成り立っております。このことは、保険料、税の公平な負担が大原則として成り立つものであります。

また、後期高齢者の滞納者で資格証明書の発行者はゼロであります。短期保険証については2人ということではあります。現に通院中である被保険者などには極力受診の機会を損なわないよう配慮もされているところでございます。

高齢者の医療制度は、現在、国も平成25年度から新しい制度に向けて種々取り組んでいるところでありますが、今まさに大きな改革がなされようとしているところであります。

平成21年度、本町の会計決算においては、制度は制度として受けとめ、市町村が立つべき適切な運営という役割は果たされていると認められることから、本会計の決算認定に賛成するものであります。

終わります。

議長（渡邊政吉君） ほかに討論ございますか。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） ないようでございますので、これで討論を終わります。

これから、認定第7号を採決いたします。

本件については、起立により採決いたします。

この決算に対する委員長報告は、認定とするものです。

認定することに賛成する議員の起立を求めます。

（賛成者起立）

議長（渡邊政吉君） 起立多数であります。

したがって、認定第7号は、認定することに決定いたしました。

次に、認定第8号平成21年度町立別海病院事業会計決算認定について、討論に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） ないようでございますので、討論を終わります。

これから、認定第8号を採決いたします。

本件は、委員長報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、認定第8号は、原案のとおり認定することに決定いたしました。

次に、認定第9号平成21年度別海町水道事業会計決算認定について、討論に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、認定第9号を採決いたします。

本件は、委員長報告のとおり認定することに御異議ありませんか。



(「異議なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 御異議なしと認めます。

したがって、認定第9号は、認定することに決定いたしました。

ただいま、平成21年度別海町各会計決算認定について、すべて決定をいたしましたので、平成21年度別海町各会計決算審査特別委員会はこれで解散いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 御異議なしと認めます。

したがって、平成21年度別海町各会計決算審査特別委員会は、ただいまをもって解散いたします。

佐藤委員長を初め委員の皆様、大変御苦労さまでございました。

#### 日程第4 発議第16号

議長(渡邊政吉君) ここで、お諮りいたします。

日程第4 発議第16号から日程第6 発議第18号までの3件については、会議規則第39条第3項の規定に基づき、委員会の付託は省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 御異議なしと認めます。

したがって、日程第4 発議第16号から日程第6 発議第18号までの3件については、委員会の付託は省略することに決定いたしました。

次に、日程第4 発議第16号メドベージェフ・ロシア大統領等の北方領土訪問に抗議を求める意見書についてを議題といたします。

内容について説明を求めます。

9 番 戸田博義議員。

9 番(戸田博義君) それでは、意見書の提案説明から入ります。

メドベージェフ・ロシア大統領等の北方領土訪問に抗議を求める意見書の内容について御説明申し上げます。

択捉島、国後島、色丹及び歯舞群島からなる北方四島は、1855年、これは安政元年でございます。日魯通好条約以来、我が国固有の領土であることは歴史的な事実であります。

1993年、東京宣言では、北方四島の帰属に関して、歴史的、法的事実に立脚し、両国間で合意の上、作成された諸文書及び法と正義の原則を基礎として解決するとの交渉指針が示され、その後の首脳による合意等においても確認された、両国がよるべき指針であります。

しかし、メドベージェフロシア大統領及びこのたびのシュワロフ第一副首相の国後島などへの訪問は、これまでの経過を全く無視するものであることから、国に対して、我が国固有の領土である北方領土への大統領訪問に重大な決意を持って抗議の意を表するとともに、北方領土問題の一日も早い解決に向けた両政府の本格的な領土交渉を再開するよう強く求めるため、本意見書を提案するものであります。

内容につきましては、意見書の朗読をもってかえさせていただきます。

発議第16号メドベージェフ・ロシア大統領等の北方領土訪問に抗議を求める意見書。

上記の議案を別紙のとおり、別海町議会会議規則第14条第1項及び第2項の規定により提出いたします。

平成22年12月17日。

別海町議会議長渡邊政吉殿。

提出者、別海町議会議員戸田博義。

賛成者、同池田幸雄、同佐藤初雄、同安田輝男、同丹羽勝夫。

メドベージェフ・ロシア大統領等の北方領土訪問に抗議を求める意見書。

択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島からなる北方四島は、1855年、日魯通好条約によって、日露両国の国境を択捉島とウルップ島の間と定め、以来、我が国領土となっている。

1945年、我が国がポツダム宣言を受諾し、降伏の意図を明確にしたのにもかかわらず、ソビエト軍が択捉島など北方四島に進撃、占拠したが、1951年に関係国との間で締結されたサンフランシスコ平和条約においては、我が国が放棄した千島列島には択捉島などの北方四島は含まれておらず、我が国固有の領土であることは歴史的な事実であります。

1993年に細川総理がエリツィンロシア大統領とともに署名した東京宣言では、北方四島の帰属に関する問題については、歴史的、法的事実に立脚し、両国間で合意の上、作成された諸文書及び法と正義の原則を基礎として解決するとの交渉指針が示され、この指針は、その後の首脳による合意等においても確認された、両国がよるべき指針であります。

メドベージェフロシア大統領及びこのたびのシュワロフ第一副首相の国後島などへの訪問は、これまでの経過を無視し、ロシアによる四島の不法な占領を既成事実化しようとするものであります。

よって、国においては、我が国固有の領土である北方領土への大統領等の訪問に重大な決意を持って断固抗議するとともに、今後ともロシア政府首脳が北方領土を訪問しないよう強く求める。

また、北方領土問題の一日も早い解決に向けて、我が国とロシア政府とが公正な解決に向けた本格的な領土交渉を平和裏に再開するよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成22年12月17日。

北海道野付郡別海町議会議長渡邊政吉。

意見書の提出先でございますけれども、衆参議長、内閣総理大臣、外務大臣、沖縄及び北方対策担当大臣。

以上であります。御審議の上、議員各位の御賛同を賜り、速やかに御決定賜りますようお願いを申し上げます。

終わります。

議長（渡邊政吉君） 発議第16号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。

4番安部議員。

4番（安部政博君） 私も機会あって、ことし、色丹島を訪問いたしました。その帰ってきた直後にメドベージェフ大統領が択捉に行くというような情報がありました。また、

ビザなし渡航についても、北方四島が返ってきたときに、初めてこのビザなし渡航が効果があったのだという役員の発言もあります。したがって、真剣に日本が北方四島を固有の領土として返還を求めるのであれば、国の真剣な態度が必要だと思うのです。したがって、メドベージェフさんが来たことに対する抗議も必要なことですが、まず先に日本の総理大臣なり大臣が行くということについての論議がなされたかどうか、その辺をお聞きしたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 9 番戸田議員。

9 番（戸田博義君） なかなか北方領土問題というのは、日露友好条約が結ばれてから今年で 155 年が経過いたしました。長い月日でございます。元島民は、1991 年にゴルバチョフ大統領訪日、このころが一番交渉が進みかけていたときでございます。こんな詩をうたってございます。北方領土つばみたるハマナスのトゲ抜けず。これは元島民の詩でございます。これは日露首脳階段に寄せての詩でありました。

委員会の中でも、今、安部委員がおっしゃられました、やはりちょうどこの機会に、やはり国民も盛り上がり、そして政府も首相が行って、断固、直接抗議すると、このことがやはり先決ではなかろうかというような、委員会でも検討といいますか意見も出てございました。そんな中で、強く求める、こういう文書にしたわけでございます。

いろいろそのほか意見も出てございました。言ってみれば、日露の条約というのは四つございます。まず最初が、先ほど言いましたように日魯通好条約、1855 年、安政元年でございますけれども、2 月 7 日、これが北方領土の日となったわけでございます。これは簡単に申し上げれば、両国の国境は択捉島とウルップ島の間に定められた。

二つ目は、樺太千島交換条約でございますけれども、1875 年、明治 8 年に、千島列島をロシアから譲り受けるかわりに樺太全島を放棄したと。ウルップ島からシュムシュ島、シュムシュ島というのは第 2 次世界大戦の最前線でございます。18 の島がございます。

それから、三つ目がポーツマス条約でございます、1905 年、明治 38 年に日露戦争がございました。その結果、北緯 50°以南の樺太が日本領となつてございます。

そして、第 2 次世界大戦の後、サンフランシスコ条約でございます。1951 年、昭和 26 年、日本は千島列島の 18 の島、南樺太を放棄したと。しかし、放棄した島には、国後、択捉、色丹、歯舞群島は含まれておりません。この平和条約で放棄した地域が最終的にどこに所属するかは決めていないわけでございます。

そんな内容の中で、委員会でもいろいろと協議して、意見書の提出になったわけでございます。答弁になったかどうかわかりませんが、そんなような内容でございます。

議長（渡邊政吉君） 4 番安部議員、よろしいですか。

ほかに御質問ございますか。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） ないようですので、質疑を終わります。

これから、討論に入ります。

討論ございますか。

5 番瀧川議員。

5 番（瀧川榮子君） 第 2 次世界大戦後、ソビエト軍が北方四島などを進撃、占拠したことは、国際法上、カイロ宣言からも認められない領土不拡大という戦後処理の原則を破ったものです。領土不拡大については、国際法であるカイロ宣言、1943 年ですが、

拘束力のある文書として認められています。この文書の中に、敵国領土の処理原則として、同盟国は自国のためには利益も利得も求めず、また、領土の拡張の念も有しないとあります。その点で、第2次世界大戦の終結時に、ソ連が領土不拡大という戦後処理の大原則を破り、日本政府がその不公正をただす立場でなかったことが、領土問題の解決を妨げていることを指摘したいと思います。現にバルト三国など、領土拡張されながら解決を見えています。

私たち日本共産党は、日本政府が半世紀以上にわたる領土交渉について総括し、歴史的事実と国際的な道理に立った本格的な領土交渉に足を踏み出すことを求めていることを申し添えます。

議長（渡邊政吉君） ほかに討論ございますか。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 今の瀧川議員の討論は、原案に反対ということではないですね。つけ加えるという意味ですね。承知しました。

それでは、討論がないようですので、これから採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、発議第16号は、原案のとおり可決されました。

ここで、10分間休憩いたします。

午前11時11分 休憩

午前11時21分 再開

議長（渡邊政吉君） それでは、休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

#### 日程第5 発議第17号

議長（渡邊政吉君） 日程第5 発議第17号公立義務教育諸学校の教職員定数等に関する意見書についてを議題といたします。

内容について説明を求めます。

8番松原議員。

8番（松原政勝君） 公立義務教育諸学校の教職員定数等に関する意見書の提案の内容について説明を申し上げます。

文部科学省は、8月27日、新公立義務教育諸学校定数改善計画（案）を発表しました。本計画では、30年ぶりとなる40人学級の見直しを行い、来年度から6年計画で小中学校すべて35人学級にし、その後の2年間で小学校1、2年を30人学級に改善するとともに、中学校では解消するという内容です。

今や少人数学級は多くの子供、保護者、教職員、自治体の切実な願いであり、時代の流れとなっております。既に北海道を含めすべての都道府県で少人数学級が実施されていますが、これは厳しい地方財政の中での自治体の努力によるものです。しかし、地方が抱える財政事情により、教育条件の充実に向けた努力にも限界があるため、地域間格差を生じているのが現状であり、格差の解消に向け、国の責任による条件整備は不可欠であります。

これらのことから、子供たちの教育の機会均等を保障し、すべての子供を大切にする教

育を実現するため、本意見書の提案をするものです。

内容につきましては、意見書の朗読をもってかえさせていただきます。

発議第 17 号公立義務教育諸学校の教職員定数等に関する意見書。

上記の議案を別紙のとおり、別海町議会会議規則第 14 条第 1 項及び第 2 項の規定により提出します。

平成 22 年 12 月 17 日。

別海町議会議長渡邊政吉殿。

提出者、別海町議会議員松原政勝。

賛成者、同安部政博、同山崎賢一、同横堀昭康、同瀧川榮子、同沓澤昌廣。

公立義務教育諸学校の教職員定数等に関する意見書。

文部科学省は、本年 8 月、平成 13 年の第 7 次公立義務教育諸学校教職員定数改善以来、10 年ぶりとなる新公立義務教育諸学校定数改善計画（案）を策定し、この中で、昭和 55 年の第 5 次公立義務教育諸学校教職員定数改善以来、30 年ぶりとなる 40 人学級を見直し、35 人、30 人学級の実現を図るとともに、複式学級の改善などを推進していくこととしている。

一人一人の子供たちにきめ細やかな教育を進めるためには、学級の過密化の解消を図ることが大切であり、その速やかな実現を求めるものである。

加えて本道は、その広域性及び過疎化の著しい進行に伴い、多くの市町村において複式学級を設置せざるを得ない状況にあり、現在、全国に抜きん出て多い、小学校 424 校 937 学級、中学校 47 校 47 学級を有しているところである。

複式学級は、1 人の担任教師が二つの学年を教えるため、1 時間の授業のうち、子供たちが先生の指導を直接受けられるのは半分だけであり、残りの時間は間接指導を余儀なくさせられるという、通常学級に比べ極めて不利な教育環境にあることから、単に学級編成基準の引き下げにとどまることなく、その解消を図らなければならない。

また、学力向上対策を徹底することや、生徒指導対策の充実を図ることが急務であることなどから、今年度、指導方法工夫改善及び児童生徒支援など、約 1,800 名の加配を受け、改善に取り組んでいるところである。

よって、国においては、これらの地域における教育課題の解決につながる定数改善とするよう、次の事項について強く要望する。

記。

1、新公立義務教育諸学校定数改善計画（案）を国の責任により速やかに実施すること。

2、基礎学力の向上を初め少人数学級の実現と教育格差の懸念される複式学級の解消に必要な教職員定数の改善及び必要な予算の確保を図ること。

3、指導方法工夫改善のための加配措置の維持・確保を図ること。

4、いじめ、不登校など、多様化・複雑化する生徒指導上の諸課題に適切に対応するための児童生徒支援にかかわる加配の拡充を図ること。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

平成 22 年 12 月 17 日。

北海道野付郡別海町議会議長渡邊政吉。

意見書提出先、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣。

以上であります。御審議の上、議員各位の御賛同を賜り、速やかに御決定賜りますようお願いを申し上げます。

議長（渡邊政吉君） 発議第１７号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） ないようですので、質疑を終わります。

これから、討論に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、発議第１７号は、原案のとおり可決されました。

#### 日程第６ 発議第１８号

議長（渡邊政吉君） 日程第６ 発議第１８号大幅増員と夜勤改善で安全安心の医療・介護を求める意見書についてを議題といたします。

内容について説明を求めます。

２番沓澤議員。

２番（沓澤昌廣君） それでは、意見書提案の説明を行います。

大幅増員と夜勤改善で安全安心の医療・介護を求める意見書の内容について後説明申し上げます。

高度に発達してきた医療技術により、年々寿命が伸びてきて、日本は世界に誇る長寿国となってきました。

しかし、その一方で、医療現場は長時間労働となり、労働環境の厳しさから、若い人たちから年々敬遠される傾向にあります。

今後は、結婚して一度は医療現場を離れた人たち、子育てが終わって再び医療現場を求める人たちが仕事に戻れるような環境を整えていくことが大切なことと思います。

このことから、看護師など、夜勤交代制労働者の労働時間を改善し、医師、看護師、介護職員を増員して、安心して医療を受けられる環境をつくっていくことが地元住民の願いであることから、本意見書の提案をするものです。

内容につきましては、意見書の朗読をもってかえさせていただきます。

発議第１８号大幅増員と夜勤改善で安全安心の医療・介護を求める意見書。

上記の議案を別紙のとおり、別海町議会会議規則第１４条第１項及び第２項の規定により提出します。

平成２２年１２月１７日。

別海町議会議長渡邊政吉殿。

提出者、別海町議会議員沓澤昌廣。

賛成者、同安部政博、同松原政勝、同山崎賢一、同横堀昭康、同瀧川榮子。

大幅増員と夜勤改善で安全安心の医療・介護を求める意見書。

長寿世界一を誇る日本の医療は、長年にわたる社会保障費抑制政策の下でも、医師、看護師などの懸命な努力で支えられてきました。

しかし、医療現場は、長時間、過密労働に加え、医療技術の進歩や医療安全への期待の固まりなどで、看護職員などの労働環境は厳しさを増し、離職者も多く、深刻な人手不足となっています。

看護師など夜勤交代制労働者の労働条件を抜本的に改善し、人手を大幅にふやして、安全・安心の医療・介護を実現することが大切になってきています。医療、社会保障予算を先進国並みにふやし、国民が安心して暮らしていける制度が求められています。

以上の趣旨から、看護師等の大幅増員を実現し、安全で行き届いた医療・看護・介護の充実を図るための対策を講じられるよう、下記の事項について要望します。

記。

1、ILO看護職員条約に基づき、看護師などの夜勤交代制労働者の労働時間を1日8時間、週32時間以内、勤務間隔を12時間以上とすること。

2、医療、社会保障予算を先進国（OECD）並みにふやし、医師・看護師・介護職員等を大幅にふやすこと。

3、国民（患者・利用者）の負担を減らし、安全・安心に医療・介護を実現すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成22年12月17日。

北海道野付郡別海町議会議長渡邊政吉。

意見書提出先、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣。

以上であります。御審議の上、議員各位の御賛同を賜り、速やかに御決定を賜りますようお願い申し上げます。

議長（渡邊政吉君） 発議第18号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 質疑を終わります。

これから、討論に入ります。

討論ございますか。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、発議第18号は、原案のとおり可決されました。

#### 日程第7 発委第8号

議長（渡邊政吉君） 日程第7 発委第8号議長の議会招集権及び地方議会議員の位置付けの明確化を求める意見書についてを議題といたします。

内容について説明を求めます。

議会運営委員長。

議会運営委員長（佐々木春男君） それでは、議長の議会招集権及び地方議会議員の位置付けの明確化を求める意見書の内容について御説明を申し上げます。

議会のあり方の見直しについては、これまでも国の地方行財政検討会議等において、議会に期待される機能とその現状について、住民の縮図としてふさわしい議員構成について、議会議員の選挙制度のあり方について、議員の位置付けについてなどに関して議論がされてまいりました。

また、総務省は、地方自治体の議会と首長の関係といった基本構造の見直しに関し、モデル案をまとめ、今後議論することとして、地方自治法の抜本改正案に反映させたいとしているところであります。

そのような中、一部の自治体において、首長が議会を招集せず、専決処分を濫用し、議会の機能を封じ込めるなどの事態も発生している状況にあります。

このような状況を踏まえ、慎重に協議、検討した結果、委員全員の賛成をもって本意見書を提案することになったものであります。

内容説明につきましては、意見書の朗読をもって説明にかえさせていただきます。

発委第 8 号議長の議会招集権及び地方議会議員の位置付けの明確化を求める意見書。

上記の議案を、別紙のとおり、別海町議会会議規則第 14 条第 3 項の規定により提出いたします。

平成 22 年 12 月 17 日。

別海町議会議長渡邊政吉殿。

提出者、別海町議会議会運営委員会委員長佐々木春男。

議長の議会招集権及び地方議会議員の位置付けの明確化を求める意見書。

憲法第 93 条第 2 項は、地方公共団体の長と議会の議員は住民が直接選挙することを定めている。それぞれ住民の意思を代表する二元代表制のもとでは、首長と議会は対等の機関であり、議会は自治体運営の基本的な方針を議決し、その執行を監視・評価することが求められている。

しかしながら、一部の自治体において、首長が法令の規定に違反し、議会を招集せず、専決処分を濫用し、議会の権能を封じ込める事態が発生している。

政府及び国会は、このような二元代表制を否定し、地方自治体の根幹を揺るがず状態を座視することなく、事態打開に向けて所要の法改正を行うべきである。

また、地方分権時代において、議会に期待されている利害調整機能、政策形成機能及び監視機能を十分に発揮するためには、議会改革や政策立案など、今まで以上に積極的に議員活動を展開していく必要がある。

そのためには、地方議会議員の職務や位置付けを法的に明確にし、地方分権時代に対応する地方議会を確立する必要がある。

よって、国においては、住民代表として政治にかかわる地方議員の職責または職務を法律上明確に定義し、地方分権時代にふさわしい議員活動を保障するため、次の事項について地方自治法を改正するよう強く要望する。

記。

1、首長が議会を招集す現行の仕組みを改め、議長にも議会招集権を付与すること。

2、地方議会議員の職責または職務を明確にするため、地方自治法に新たに、例えば「議会の議員は議会の権能と職務を認識し、その議会の会議に出席し、議案の審議等を行うほか、当該普通地方公共団体の事務に関する調査研究及び住民意思の把握等のための諸



活動を行い、その職務の遂行に努めなければならない」旨の規定を設けること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成22年12月17日。

北海道野付郡別海町議会議長渡邊政吉。

意見書提出先、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣。

以上であります。御審議の上、速やかに御決定賜りますようお願い申し上げます。

議長（渡邊政吉君） 発委第8号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 質疑を終わります。

これから、討論に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、発委第8号は、原案のとおり可決されました。

#### 日程第8 発委第9号

議長（渡邊政吉君） 日程第8 発委第9号B型肝炎問題の早期全面解決を求める意見書についてを議題といたします。

内容について説明を求めます。

文教厚生常任委員長。

文教厚生常任委員長（安部政博君） B型肝炎問題の早期全面解決を求める意見書の内容について御説明を申し上げます。

本件は、平成22年11月5日付で、全国B型肝炎訴訟団、全国B型肝炎訴訟北海道弁護団、北海道B型肝炎訴訟を考える会の連名で要請があり、文教厚生常任委員会で協議、検討したものであります。

提案の趣旨を説明いたします。

国は、集団予防接種において注射器等の使い回しをすれば被接種者がB型肝炎ウィルスに感染する可能性があることを認識しているにもかかわらず、注射器の1人ごとの交換や消毒の指示を怠りました。

最高裁判所は、国の損害賠償を求めた裁判において、国の責任を認めており、その後、全国600名を超えるB型肝炎患者、原告団が国に対して損害賠償を求め、提訴しています。

本年3月、札幌地裁は和解勧告を行い、国は5月になってようやく勧告を受け入れ、協議に応じる決定をしました。

しかし、11月に入ってから、和解協議では、国がその和解を先延ばししています。

この12月7日に札幌地裁で行われた第9回協議において、裁判長は初めて未発症の感染者、いわゆるキャリアの扱いで、被害者の損害賠償請求権が消滅する除斥期間、これ

は20年あります。それにかかわらず救済するよう国に促す見解を初めて示しました。しかし、国はキャリアへの和解金の支払いを拒む姿勢を崩さず、この12月22日にことし最後の和解協議が予定されておりますが、原告団の目指している年内合意は微妙と報じられております。

道内B型肝炎訴訟の原告、被害者は、本年11月現在、93人となっており、身近な患者を救うためにも、地域における各種肝炎対策を積極的に推進しなければなりません。

このような状況を踏まえ、慎重に協議、検討した結果、委員全員の賛成をもって本意見書を提出することになったものです。

内容説明につきましては、意見書の朗読をもって説明にかえさせていただきます。

発委第9号B型肝炎問題の早期全面解決を求める意見書。

上記の議案を、別紙のとおり、別海町議会会議規則第14条第3項の規定により提出します。

平成22年12月17日。

別海町議会議長渡邊政吉殿。

提出者、別海町議会文教厚生常任委員会委員長安部政博。

B型肝炎問題の早期全面解決を求める意見書。

平成18年6月、最高裁判所は、道内のB型肝炎患者の方々がB型肝炎ウィルスに感染した原因が注射の針・筒を連続使用した集団予防接種にあるとして、国の損害賠償を求めた裁判において国の責任を認めました。

その後、道内の多くのB型肝炎患者の方々が国に対し損害賠償を求め提訴した裁判において、本年3月、札幌地方裁判所は和解勧告を行い、国はこの勧告を受け入れ、9月には和解案を示しましたが、国と原告の主張には依然隔たりがあり、いまだ合意には至っておりません。

よって、国においては、早期全面解決に向けたより誠実な和解案を提出するよう、次の事項について強く要望します。

記。

1、国は、B型肝炎患者に深刻な健康被害が生じていること、また、未発症のB型肝炎ウィルスキャリアについても、社会的差別、偏見、発症の恐怖等の損害が現実に発していることを十分配慮して、早急に協議を進め、一日でも早く和解を実現させること。

2、肝炎患者にとって経済的負担の心配のない医療費助成制度の整備を進めること。

3、肝炎患者に対する差別、偏見をなくすため、正しい知識の啓発活動を進めること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成22年12月17日。

北海道野付郡別海町議会議長渡邊政吉。

意見書提出先、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、厚生労働大臣。

以上であります。御審議の上、速やかに御決定賜りますようお願い申し上げます。

議長（渡邊政吉君） 発委第9号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 質疑を終わります。

これから、討論に入ります。

討論ございますか。

(「なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 御異議なしと認めます。

したがって、発委第9号は、原案のとおり可決されました。

#### 委員会開催の承認について

議長(渡邊政吉君) 次に、日程第9 委員会開催の承認についてを議題といたします。

内容については、お手元に配付のとおりであります。

お諮りいたします。

委員会開催については、委員長申し出のとおり、承認することに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 御異議なしと認めます。

したがって、委員長申し出のとおり、承認することに決定いたしました。

#### 閉会宣告

議長(渡邊政吉君) 以上をもって、本定例会に付議された案件の審議はすべて終了いたしました。

これにて、平成22年第4回別海町議会定例会を閉会いたします。

閉会 午前11時56分

#### 町長あいさつ

議長(渡邊政吉君) 町長、あいさつ。

町長(水沼 猛君) 本年最後となりました定例町議会の閉会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

議員の皆様におかれましては、師走の大変お忙しい中、12月14日から4日間にわたりまして慎重な御審議をいただきました。提出議案12件について、それぞれ御決定を賜りましたことに心から御礼を申し上げます。

また、本定例会におきましては、平成21年度の各会計決算につきましても、すべて認定をいただきました。決算審査特別委員会の皆様方におかれましては、審査の段階におきまして、熱心に、かつ慎重に御審議をいただきましたことに対しまして、改めて感謝を申し上げます。

なお、審査報告の中にございました御指摘や御意見、御提案等につきましては、予算の適正かつ効率的な執行に反映させていただきたいと考えておりますので、今後とも御指導賜りますようお願いを申し上げます。

さて、ことしを振り返ってみますと、農家の方々におかれましては、4月20日の宮崎県の和牛繁殖農家で口蹄疫が発生し、防疫対策をとってまいりましたが、不安を抱きながらの経営となったところでございます。

そして、猛暑の影響を受けまして、乳量生産量も伸び悩んでいたところに、去る11月9日、政府は包括的経済連携に関する基本方針を閣議決定いたしました。農家の皆さんにとっては本当に厳しい経営環境が続いております。

町といたしましても、TPPへの参加には断固反対でありますし、今後も反対の意思を貫いていく所存であります。したがって、皆さんの御理解、御協力を心からお願いを申し上げたいと思います。

また、漁業関係におきましても、本町の太宗漁業であります秋サケ漁も記録的な大不漁の年となりました。補正予算により緊急の支援対策を講じたところでございますが、漁家の皆さんにとっても農家と同様、ことしは非常に厳しい1年になったことと思います。

このように、本町の基幹産業を取り巻く厳しい状況が続いておりますが、7月の参議院選挙の結果、国政もさらに不安定な状況になり、特に外交や国防などの重要な政策とあわせて、地域主権のあり方、来年度以降の財政対策も先行き不透明な状況になってきております。

そして、厳しい年となった平成22年ももう少しで終えようとしておりますが、現在、町と議員並びに町民の皆様方との協働による自治基本条例の制定に向けた作業が来年3月の条例化に向けて進められております。私といたしましては、この自治基本条例をもとに、さらに第6次総合計画の将来像である笑顔あふれる豊かさ実感のまちづくりを目指して、町民の皆様とともに積極的なまちづくりを進めたいと考えているところでございます。

また、本年は4回の定例会のほか、5回の臨時会を通じて、議員の皆様方から数々の貴重な御意見をいただきました。これらの御意見につきましても、今後の本町の発展と町民福祉の向上に生かしていく所存でございます。

国の政策を初め地方自治体への財政対策も現在のところ非常に厳しい状況にあります。いずれにいたしましても、町民の皆様にとって未来が明るく住みやすいものになるよう、議会と行政がともに手を携え、努力してまいりたいと考えておりますので、議員各位の一層の御支援を賜りますようお願いを申し上げます。

ことしもいよいよ残すところあと14日間となりました。これから年末年始を控え、それぞれお忙しい日々が続くものと思いますが、寒さもますます厳しくなっておりますので、どうか御自愛の上、それぞれの目標に向かって希望あふれる新年をお迎えください。また、この1年間の議員の皆様方の町政に対する御理解と御協力に感謝を申し上げまして、本年第4回町議会定例会の閉会に当たってのあいさつとさせていただきます。

なお、年明けの日程でございますが、1月5日には新年交礼会を予定しております。また、1月17日の週には、国の補正予算にかかわる事業対応のための議案提出を予定しておりますので、後ほど決まり次第、臨時会開催の御案内をいたしたいと考えておりますので、ぜひ日程の調整をいただきまして、御参集賜りますようよろしくお願いを申し上げます。

本当にこの1年間、大変御苦労さまでございました。そして、大変ありがとうございました。

議長（渡邊政吉君） 12月定例会、例年ですと、冒頭に私からも一言皆様にごあいさつを申し上げたのですが、このたびは大変忙しい定例会でございましたので、冒頭にごあいさつ申し上げませんでした。

今、町長からるるごあいさつありましたように、本当にこの１年間、議員の皆さんはもちろん、管理職、理事者の皆さん、大変議会もお世話になりました。

どうぞ、風邪もはやっているようでございます。これからことしの集大成、反省をやらせて、また来年、いい年を迎えることを皆さんで願ひまして、議長の１２月定例会の最後のあいさつにかえさせていただきます。どうもありがとうございました。

上記は、地方自治法第 1 2 3 条の規定により会議の次第を記載したものである。

平成 年 月 日

署 名 者

別海町議会議長

議 員

議 員

議 員